

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320141

研究課題名(和文) 近現代中国における政党文化史についての基礎的研究

研究課題名(英文) the culture of political party in modern China

研究代表者

石川 禎浩 (Ishikawa, Yoshihiro)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：10222978

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円、(間接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：4年にわたる研究期間において、研究代表者たる石川は研究分担者の協力を得て、近現代中国の政党史関連資料を広範囲に収集し、あわせてそれら資料を分析、検討するための共同研究班(「現代中国文化の深層構造」)を2010年に組織し、近二年だけで30回を超える例会を開催した。

研究班例会で行われた知見の交換を基礎として、石川は2001年に刊行した著書『中国共産党成立史』を改訂し、その成果を英語版として2012年11月にコロンビア大学出版社より刊行した。また、中共党史における第一回大会の記憶に关するメカニズムを解明し、その成果を2012年6月と2013年3月にそれぞれオランダとアメリカの学会で発表した。

研究成果の概要(英文)： In these four years, we collected documents concerned, and investigated various aspects of the cultures of political party in modern China, mainly from historical perspectives. After the preliminary investigation in an academic year 2010-2011, I organized a serial seminar on "the Deep structure of the modern and contemporary Chinese cultures", and has been held more than 30 times in recent two years. In this serial seminar, I shared my knowledge about China's political culture with my research group.

On the basis of data which I had processed, I revised my book "The Formation of the Chinese Communist Party", and published its English version in November 2012. This volume conducts a pathbreaking new analysis of the Chinese Communist Party (CCP). Crossing the Chinese border, I not only considered the relations between the CCP and the Comintern (as well as the Soviet Union) but also closely scrutinizes its relations with Japan and Western countries.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国近現代史 政党文化 中国共産党

### 1. 研究開始当初の背景

この研究テーマに着目するにいたった理由は、これまで研究代表者が従事してきた中国共産党史の研究を、その前後の時代の政党文化史に関連づけて考察することで、共産党の政党としての特質・特徴をより立体的に比較検討できるはずだと考えたことによる。すなわち、時代的にさかのぼれば、“党禁”が解かれた清末時期の政党(党)の観念・概念にかんする同時代人の理解にはじまり、辛亥革命後の政党の林立とそのころの政党活動の実際を検討することが必要であり、時代をくぐれば、共産党と同時代の政党であり、一卵性双生児ともいふべき中国国民党の政党文化との比較検討が必要であり、さらには1920年代以降に誕生・活動した中国青年党やいわゆる民主諸党派と呼ばれる政党との相互関係や相互対立の歩みを分析することが必要だと認識するにいたったのである。

### 2. 研究の目的

近現代の中国においては、少数の先覚者が民衆を指導するという理念のもと、独自の政党文化が開花した。その様態は、掲げるイデオロギーの違いこそあれ、国民党、共産党、そしてその他の政党にも共通し、国家運営システムとしては「党国体制」(パーティ・ステイト・システム)を生み出し、他方で党内の行動様式や思考パターンが一般社会にも拡大することを指向した。本研究においては、今日の中国(大陸・台湾を含む)にも引き継がれているそうした政党文化、あるいは「党」という概念に対して、主として文献学、歴史学の手法を用いて、通時的かつ複眼的アプローチからその歴史的起源、形成、展開を、実証的にあきらかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

近現代中国の政党文化の特質を解明するためには、いわゆる“党禁”が解かれた清末の政党設立ブーム以降、1949年までに結成された諸政党の党運営に関する資料を系統的に収集・検討せねばならない。とりわけ、中国現代の二大政党である国民党と共産党については、公刊されている資料の中に、後年の立場からする訂正・改竄が散見するため、それらの党史に深い造詣を持つ研究代表者、分担者が各々の専門知識を生かしながら、連携して資料の再収集、再編纂をする基礎作業がまず必要になる。本研究では、その基礎作業を行った上で、さらに研究分担者以外の専門研究者も加えた共同研究会「近現代中国の政党文化」(仮称)を定期開催し、知見の交換、すり合わせ、討議を重ね、政党社会学的アプローチを取り入れながら、中国政党文化の全容の解明をめざす。

### 4. 研究成果

(1) 研究初年度と二年度目にあたる2010-2011年度においては、基本的な資料収

集とその整理に力点をおく一方、2010年4月に、本研究事業の関係者を中心として発足した共同研究班「現代中国文化の深層構造」を定期開催していくことにより、それぞれの研究構成員の研究成果を持ち寄り、相互の知見を交換した。こうした研究班例会は隔週一回の割合で開催し、その回数は本研究事業の4年間のあいだに60回以上を数えた。また、2011年度には、中国国民党・共産党型の政党文化が在地社会において、いかなる展開・変容を見せているかについて、フィールドワークをまじえた調査をおこなった。具体的には、かつて1930年代半ばに中国共産党がいわゆる“長征”を行い、その行程がある種の伝統・神話として継承されている中国西南内陸地域(四川省、雲南省)において、現地調査を実施して、“党”文化の今日的様態を精査した。こうした現地調査により、“党”文化がおりから中国各地で進行している歴史像のナショナリズム的再編や観光事業の発掘と重層的に絡まり合いながら、世俗化していくという過程を発見・確認することができた。

(2) 2012年度は、現地調査、資料調査を通じて得られた諸資料の整理・分析を進めるとともに、政党文化が在地社会において、どのような展開・変容を見せているかについて、海外調査を含めて資料の収集分析に努めた。合わせてそれら海外調査を通じて得られた諸資料や購入した資料の紹介・分析を進めた。一方、これまでの毛沢東研究によって得られた知見をまとめ、それらを鋭意英語によって発表することにつとめた。研究代表の石川と分担者の小野寺が6月末にオランダのライデンで行われたIIAS主催の国際学会「History, Identity & Collective Memory: In Search of Modern China」で報告した事例、石川が3月下旬にアメリカのサンディエゴで開催された国際学会(「Association for Asian Studies (AAS), Annual Conference 2013」)で報告した事例がそれであり、いずれも大きな反響と好評を得た。

(3) 2013年度は、これまで行ってきた資料収集において残欠のある部分を補うとともに、これまでの研究活動によって新たに浮上してきた問題、すなわち中国共産党における政党文化の一大特徴である党指導者の個人崇拜にかんする研究に着手し、特に毛沢東神話に決定的役割を果たしたエドガー・スノウ『中国の赤い星』の取材・執筆状況について、重点的補足調査を行った。具体的にいえば、University of Missouri - Kansas Cityの文書館においてEdgar Snow Papersを、StanfordのHoover Institution ArchivesにおいてNym Wales Papersを重点的に調査し、『赤い星』以前にスノウらが持っていた中国共産党情報、毛沢東イメージについて、明らかにすることができた。

本研究の最終年度にあたる2013年度においては、研究成果の発表にも力を入れた。京都大学現代中国研究拠点と協力しながら、12

月の国際シンポジウム(「人民共和國史  
今どこまで解明されるのか」)およびそれと  
並行して開催される「1950年代の中国研究」  
と題するワークショップで、本研究の成果の  
一端を報告することによって、この分野の研  
究を狭い意味の「党史研究」から脱皮させ、  
「政党文化史」という新たなディシプリンを  
確立させることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

[雑誌論文](計 36 件)

1. 石川禎浩、蘇聯《国外》雑誌刊登の毛沢東  
略伝、中共党史研究、No.12、査読あり、2013、  
115-118
2. 石川禎浩、李大釗 中国マルクス主義の  
父、趙景達等編『講座 東アジアの知識人』  
第3巻(有志舎) 査読なし、2013、14-30
3. 石川禎浩、近代東アジアにおける「奴隷」  
概念、弘末雅士編『越境者の世界史 奴  
隷・移住者・混血者』(春風社) 査読なし、  
2013、99-117
4. 石川禎浩、中共「二大」與中共党史研究史、  
中共一大会址紀念館編『中国共産党創建史研  
究文集(2002-2012 年)』(上海人民出版社)、  
査読あり、2013、222-242
5. 石川禎浩、近代日中の翻訳百科事典につい  
て、石川禎浩・狭間直樹編『近代東アジアに  
おける翻訳概念の展開』(京大人文研) 査読  
あり、2013、277-307
6. 石川禎浩、政治史、岡本隆司・吉澤誠一郎  
編『近代中国研究入門』(東京大学出版会)、  
査読なし、2012、145-173
7. 石川禎浩、栗原浩英、コミンテルンとアジ  
ア、山室信一編『新秩序の模索 1930 年代』  
(岩波書店) 査読なし、2011、99-122
8. 石川禎浩、由考証学走向史料学 從中共  
“一大”幾份資料談起、中国浦東幹部学院学  
報、査読あり、No.5、2011、93-100
9. Ishikawa Yoshihiro, The “Sleeping Lion”  
and Liang Ch’i-ch’ao: An Image of  
“Frankenstein’s Monster” in China, ACTA  
ASIATICA, 査読あり、No.102、2012、69-88
10. 石川禎浩、晚清“睡獅”形象探源、桑兵  
編『轉型中的近代中国 近代中国的知識与  
制度轉型學術研討會論文選』上巻(社会科学  
文献出版社) 査読あり、2010、97-104
11. 森時彦、長江上流域の綿製品流通、森時  
彦編『長江流域社会の歴史景観』(京大人文  
研) 査読あり、2013、127-142
12. 森時彦、清末における political economy  
の受容 梁啓超を中心に、石川禎浩・狭間直  
樹編『近代東アジアに おける翻訳概念の展  
開』(京大人文研) 査読あり、2013、253-276
13. 森時彦、兩次世界大戦之間中国的日資紗  
廠與高陽織布業、近代史研究、査読あり、No.4、  
2011、67-84
14. Mori Tokihiko、The Reception of

- Political Economy in the Late Ch’ing: With  
a Focus on Liang Ch’i-ch’ao、ACTA  
ASIATICA、査読あり、No.102、2012、43-67
15. 森時彦、河北省新河県の社会流動与戸口  
变化動向、欧陽恩良編『近代中国社会流動与  
社会控制』(社会科学文献出版社) 査読あり、  
2010、1-30
16. 村上衛、効かない証明書 19 世紀末、  
鎮江における通過貿易問題、森時彦編『長江  
流域社会の歴史景観』(京大人文研) 査読あ  
り、2013、81-101
17. 村上衛、植民地と移民ネットワークの相  
克、東洋史研究、No.4、査読あり、2014、36-70
18. Murakami Ei, A Comparison of the End  
of the Canton and Nagasaki Trade Control  
Systems, *Itinerario*, No.37、査読あり、2013、  
39-48
19. 村上衛、中国經濟の發展と 19 世紀清朝  
のふたつの危機、秋田茂編著『アジアからみ  
たグローバルヒストリー』(ミネルヴァ書房)  
査読なし、2013、172-193
20. Murakami Ei, Two Bonded Labour  
Emigration Patterns in  
Mid-Nineteenth-Century Southern China,  
Gwyn Campbell and Alessndro Stanziani  
eds, *Bonded Labour and Debt in the Indian  
Ocean World*(Pickering & Chatto) 査読あ  
り、2013、153-164
21. 村上衛、近代中国沿海世界とイギリス  
海賊、海難と密貿易、金澤周作編『海のイ  
ギリス史 闘争と共生の世界史』(昭和堂)  
査読なし、2013、292-305
22. 村上衛、「東アジア」を超えて 近世東  
アジア海域史研究と「近代」、歴史学研究、  
No.906、査読あり、2013、35-44
23. Murakami Ei, The Opium Trade and  
the Transformation of the Maritime Trade  
System in Pre-Opium War China: A  
Reexamination、*Modern Asian Studies  
Review*、査読あり、No.4、2013、31-57
24. 村上衛、經濟史、岡本隆司・吉澤誠一郎  
編『近代中国研究入門』(東京大学出版会)、  
査読なし、2012、87-115
25. 村上衛、清末沿海經濟史、近きに在りて、  
査読なし、No.59、2011、40-47
26. 小野寺史郎、王清穆『農隱廬日記』に見  
る民国前期の江南士紳、森時彦編『長江流域  
社会の歴史景観』(京大人文研) 査読あり、  
2013、145-168
27. 小野寺史郎、国慶与国恥 近代中国紀  
念儀式的表象戰略、  
、No.55、  
査読なし、2013、71-92
28. 小野寺史郎、19 世紀末日中における「記  
念」の語義変化について、石川禎浩・狭間直  
樹編『近代東アジアに おける翻訳概念の展  
開』(京大人文研) 査読あり、2013、167-183
29. 小野寺史郎、1920 年代の世界と中国の国  
家主義、村田雄二郎編『リベラリズムの中国』  
(有志舎) 査読あり、2011、204-224
30. 小野寺史郎、大清臣民与民国国民之間？、

華東師範大学学報、査読あり、No.5、2011、80-86

31. 小野寺史郎、地方史研究と王清穆日記、高田幸男・大澤肇編著『新史料からみる中国現代史 口述・電子化・地方文献』(東方書店) 査読なし、2010、219-247

32. 武上真理子、「太平洋の時代」における上海港 孫文「東方大港」計画をめくって、森時彦編『長江流域社会の歴史景観』(京大人文研) 査読あり、2013、25-52

33. 武上真理子、シヴィル・エンジニアリングの語と概念の翻訳 「市民の技術」とは何か、石川禎浩・狭間直樹編『近代東アジアにおける翻訳概念の展開』(京大人文研) 査読あり、2013、217-251

34. 武上真理子、近代科学思想と孫中山、孫中山宋慶齡文献と研究、No.4、査読なし、2013、59-82

35. 武上真理子、近代科学思想と孫文、日本孫文研究会編『グローバルヒストリーの中の辛亥革命』(汲古書院) 査読あり、2013、297-322

36. 袁広泉、中興炭礦没収事件顛末 戦地における北伐戦費調達に対する民間企業の反発、石川禎浩編『中国社会主義文化の研究』(京大人文研) 査読あり、2010、435-464

〔学会発表〕(計 22 件)

1. Ishikawa Yoshihiro、Some Added Explanations to the Formation of the Chinese Communist Party: Memories and Memoirs about the Founding Day of the Party (July 1)、Association for Asian Studies (AAS)、Annual Conference、2013.3.21、San Diego、アメリカ

2. 石川禎浩、中共党史研究之起步与雑誌《党史資料》、ワークショップ「1950年代の中国」、2012.7.26、上海、中国

3. Ishikawa Yoshihiro、The Date No One Could Recall: Collective Memory about the Founding Day of the Chinese Communist Party、History, Identity & Collective Memory: In Search of Modern China (招待講演)、2012.6.29、Leiden、オランダ

4. 石川禎浩、由考証学走向史料学 從中共“一大”幾份資料談起、中国共産党創建史学術研討会〔招待講演〕、2011.6.15、上海・中国浦東幹部学院

5. 石川禎浩、西方社会主義者所觀察的晚清中国社会主義、紀念辛亥革命 100 周年國際学術研討会、2011.10.13、武漢・東湖賓館

6. 石川禎浩、清末排滿主義と近代東アジアの人類学、國際シンポジウム「東アジアにおける知の流通 近代を中心に」、2011.1.28、京都・京都大学

7. 石川禎浩、小説『劉志丹』事件の歴史的背景とその展開、東北中国学会第 59 回大会、2010.5.29、弘前大学

8. 森時彦、新型地方志与新編地方志、方志文献國際学術研討会〔招待講演〕、2011.8.9、寧

波・香格里拉大酒店

9. 森時彦、辛亥革命前後長江流域の棉製品流通、紀念辛亥革命 100 周年國際学術研討会、2011.10.12、武漢・東湖賓館

10. 森時彦、辛亥革命前後四川棉製品流通動向、四川辛亥革命暨尹昌衡國際学術研討会、2011.10.17、成都・潤邦國際飯店

11. 森時彦、清末中国吸納經濟学(political economy)路径考:以梁啓超为中心、“清代政治与国家認同”國際学術研討会、2010.8.10、北京 中国人民大学

12. 森時彦、論 1920 年代中国棉紡績業的重組与高陽織布業、第三回近代中国与世界國際学術研討会、2010.5.21、北京・香山賓館

13. Murakami Ei、Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy: Pirates along the Coast of Fujian during the Mid-Nineteenth century、EHES Seminar “Histoire du Japon moderne et contemporain: permanences et ruptures”、2014.2.20、EHES (Paris)

14. 村上衛、海の近代中国 福建人の活動とイギリス・清朝、社会經濟史学会近畿部会・経営史学会、2014.1.11、関西大学

15. Murakami Ei、Trade and Concession: Opium Trade in Canton before the Opium War、16th World Economic History Congress、2012.7.11、ステレンボッシュ大学、南アフリカ

16. 村上衛、辛亥革命時期在廈門の北婆羅洲移民事業、四川辛亥革命暨尹昌衡國際学術研討会、2011.10.18、成都・潤邦國際飯店

17. Murakami Ei、Restoration of the governance in Southern China during the mid-19th Century、Scholarly Perspectives on China: The View from Japan、2011.11.13、京都・京都大学

18. 小野寺史郎、国慶与国恥:近代中国紀念儀式的表象戦略、「全球化時代与東亜文化的表象」國際学術研討会、2013.6.17、ソウル:漢陽大学校

19. Onodera Shiro、Commemorating the National Humiliation: the Origin of Modern Chinese Jinian and Guochi Jinian、History, Identity & Collective Memory: In Search of Modern China (招待講演)、2012.6.29、Leiden、オランダ

20. 小野寺史郎、19 世紀末中日両国“紀念”涵意的推陳出新、辛亥革命与世界國際学術研討会、2011.10.18、北京・北京大学

21. 小野寺史郎、大清臣民與民國公民之間? 以新政時期萬壽聖節爲中心的探討、「身體、權力與認同」國際学術研討会、2010.12.12、台北・國立政治大學

22. Takegami Mariko、Some Aspects of Xixue-Dongjian around the Western Sciences: A Case Study on the Translation Department, Kiangnan Arsenal、Modern China's Internationalization and its Legacies、2013.1.12、Bristol、英国

〔図書〕(計 8件)

1. 石川禎浩、社会科学文献出版社(北京) 二十世紀中国的社会与文化、2013、496
2. Ishikawa Yoshihiro、Columbia University Press、*The Formation of the Chinese Communist Party*、2012、503
3. 石川禎浩、岩波書店、革命とナショナリズム、2010、240
4. 森時彦、社会科学文献出版社(北京) 20世紀中国的社会体系、2011、716
5. 村上衛、名古屋大学出版会、海の近代中国：福建人の活動とイギリス・清朝、2013、692
6. 小野寺史郎、社会科学文献出版社(北京) 国旗、国歌、国慶 近代中国的国族主義与国家象徴、2014、348
7. 小野寺史郎、東京大学出版会、国旗・国歌・国慶 ナショナリズムとシンボルの中国近代史、2011、363
8. 武上真理子、勁草書房、科学の人(マン・オブ・サイエンス)・孫文：思想史的考察、2014、282

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/index.htm>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

石川 禎浩 (ISHIKAWA, Yoshihiro)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号：10222978

### (2)研究分担者

森 時彦 (MORI, Tokihiko)  
京都大学・人文科学研究所・名誉教授  
研究者番号：70027564

村上 衛 (MURAKAMI, Ei)

京都大学・人文科学研究所・准教授  
研究者番号：50346053

小野寺 史郎 (ONODERA, Shiro)

京都大学・人文科学研究所・助教  
研究者番号：40511689

袁 広泉 (YUAN, Guangquan)

京都大学・人文科学研究所・准教授  
研究者番号：50467396

武上 真理子 (TAKEGAMI, Mariko)

京都大学・人文科学研究所・准教授  
研究者番号：70636795

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：